

うっしっしいー情報2018

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月10日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が119万3千円、雌が97万2千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	8	0.922	1,071,360	7	0.835	879,583	15	981,864
篠山	2	1.091	1,331,100	-	-	-	2	1,331,100
丹波	14	0.969	1,208,906	11	0.870	911,127	25	1,077,883
朝来	5	0.990	1,244,160	1	0.721	843,480	6	1,177,380
播磨	18	0.917	1,138,980	14	0.859	902,880	32	1,035,686
美方郡	63	0.983	1,210,080	36	0.888	1,060,170	99	1,155,567
豊岡	9	0.978	1,225,800	18	0.857	958,020	27	1,047,280
養父	18	0.945	1,249,260	15	0.845	974,376	33	1,124,313
摂津・神戸	5	0.929	1,103,976	4	0.830	825,930	9	980,400
県北C	5	0.893	1,042,416	-	-	-	5	1,042,416
市場全体	147	0.962	1,192,967	106	0.863	971,633	253	1,100,234

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸池土井	9	0.973	1,252,200	4	0.911	1,015,740	13	1,179,443
2	照忠土井	24	0.970	1,201,995	9	0.824	1,009,920	33	1,149,611
3	芳悠土井	42	0.987	1,247,477	33	0.890	1,024,036	75	1,149,163
	総計	147	0.962	1,192,967	106	0.863	971,633	253	1,100,234
4	芳山土井	16	0.967	1,127,250	11	0.862	982,996	27	1,068,480
5	丸宮土井	18	0.919	1,178,700	22	0.845	957,224	40	1,056,888
6	千代藤土井	6	0.969	1,155,780	8	0.873	897,480	14	1,008,180

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸池土井	B → C	A+	B → C	B → C	A+	A+++ → A++
2	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
3	芳悠土井	A	A	A → B	B	B	A++
4	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
5	丸宮土井	C	B	A+	A++	A+	A++
6	千代藤土井	A	A+++	D	A	A++	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成30年7月現在)

寒くなってきました。子牛管理の再確認を!!



〇はじめに

子牛に限らず、人間も冬になると体調を崩すことがよくあります。人間は「しんどい」「寒い」と言葉を発することが出来ますが子牛はどうでしょうか？発熱、下痢、咳などの症状が出て初めて体調を崩していることに気づくことが多いです。

そこで今回は、そのような症状を出さないようにする対策を再確認します。

〇どの程度まで寒くなったら影響が出るの？

ほ乳子牛は母牛と比べ、極端に寒さに弱いのは十分に理解している事でしょう。では、実際にどのくらい温度が下がれば影響が出てくるのでしょうか？ほ乳子牛にとって「好ましい温度（適温域）」は13~25℃と母牛に比べて高く、「生産性に影響を及ぼす温度（生産環境限界温度）」の下限温度は5℃で、母牛に比べ15℃も高いです（右表）。

ほ乳子牛にとって快適な温度とは、人間が快適に感じる温度域に近く、人間が防寒着などが無いと寒いと感じる温度はほ乳子牛も寒いと感じています。

ほ乳子牛が母牛に比べて生産環境限界温度の下限が高いのは、以下の理由によるものです。

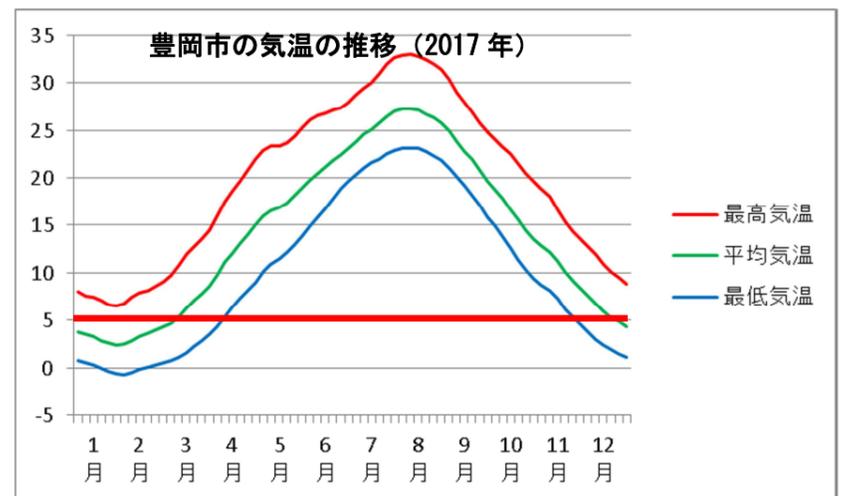
- ①体脂肪が少ない（脂肪が少ないため寒さの影響を受ける）
- ②第一胃の発酵熱が少ない（ルーメン発酵活動が始まっていない）
- ③体重あたりの表面積が大きい（体重あたりの放熱量が多い）

右のグラフは2017年の豊岡市の気温の推移です。11月中旬から4月上旬の5ヶ月間は、ほ乳子牛の寒さ対策を行う必要があります。

豊岡よりも内陸部や標高の高い地域では、より気温が低く期間も長くなります。徹底した寒さ対策を行きましょう。

表 牛の種類による温度の影響

	適温域(°C)	生産環境限界温度(°C)	
		低温	高温
ほ乳子牛	13~25	5	32
育成牛	4~20	-10	32
母牛	10~15	-10	30
肥育牛	15~25	-5	30



〇寒さを防ごう

牛が寒さを感じる主な原因は、①体が濡れる、②風が体に当たる、③冷たい物に触れる、などがあります。

①体を濡らさない（水分の蒸発により熱が奪われる）

ふん尿などで下腹部が濡れないように、ふん尿処理を適切に実施し、牛床に敷料を入れて十分に乾いた状態にしましょう。

②すきま風を防ぐ（すきま風で体感温度が低下）

冷たい風が直接当たらないようにシート、ネット、板などを利用してすきま風を防ぎましょう。ただし、牛舎を閉め切ってしまうと、アンモニアガスがこもり呼吸器病の原因にもなりますので、日中の暖かい時間を見計らって空気の入換えを実施してください。

③床面・壁面からの冷えを防ぐ（冷たい床などにふれて熱が奪われる）

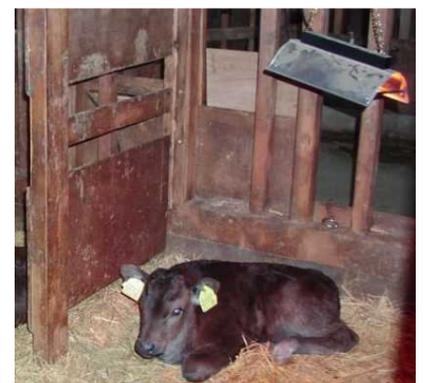
コンクリートの床は想像以上に冷たく、その上に寝ると腹が冷えます。おがくすや糶がらなどの敷料を十分に入れる、ゴムマットやお風呂用のマットなどを牛床に敷き、直接床などに触れて、体を冷やさないう対策をしてください。



敷料を十分に!!（オガの飛散に注意）

〇暖めましょう

夜間など寒さが厳しい時は、畜産用ヒーターなどの暖房器具や、カーフジャケット、ネックウォーマーなどを着せて保温するのも有効です。ただし、カーフジャケットやネックウォーマーなどは濡れていたりすると逆効果ですので乾いた状態で利用してください。なお、投光器での保温は、落下による火事の恐れがありますので使用は控えてください。



ヒーターによる保温

〇他の対策は

給与量の確認：寒くなると体温維持のため、エネルギーを多く使います。暖かい時と同じ給与量では不足ですので増やしてください。

ほこりに注意：おがくすなどから出る細かなほこりは、気管に吸い込まれると肺炎の原因となりますので注意が必要です。

空気の入換え：牛舎の閉めきりは厳禁。日中だけでも空気の入換えを！空気が淀んでいる場所は弱く送風機を回すのも効果的（再掲）

今回の内容は、特別な対策はないですが、出来るだけ多くの対策を組み合わせる事が重要です。また、不十分なところがあると、その影響は大きくなります。寒くなる前に再確認し、早めの実施と不十分なところをできるだけ改善してください。